

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
69	川崎市立西野川小学校	神宮 祥恵

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく元気な子【元気】</li> <li>・仲良く助け合う子【思いやり】</li> <li>・よく考え工夫する子【やる気】</li> <li>・最後までやりぬく子【根気】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな心でふれ合う学校</li> <li>・学びを楽しむ学校</li> <li>・健康で安心な学校</li> <li>・共に歩み、つながり合う学校</li> </ul>	<p>「つながる」その先にたくさんの笑顔！                      (子ども・保護者・教職員・地域が人と人との関係を大切にし、より豊かに結んでいく学校)</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	児童理解・児童指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の児童の見取り、生活アンケートや効果測定等を通して、児童の実態把握に努めた。年2回の生活アンケート後は全児童と面談を行い、問題の早期発見と早期解決に努めた。</li> <li>・保護者や児童の話を積極的に聞くようにした。管理職・CO・担任・養護教諭が情報を共有することで、適切な支援につながっている。今後、報告・連絡・相談の徹底を図りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級内での一次支援(誰もが分かりやすい授業・だれもが安心して過ごすことのできる学級)の充実を図りたい。研修を行うと共に、低中高学年で学級の環境を見合い、意見を交流する機会をもちたい。</li> <li>・外国とつながりのある児童が増えてきている。児童間の理解を深めるだけでなく、その友だちをきっかけとした異文化理解の取り組みを充実させたい。</li> </ul>
2	安心して過ごすことのできる集団作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営の重点目標を受け、運営委員会の児童が中心となり、今年度のスローガン「笑顔・思いやり・西野川」を決定した。それに向かって、学級や委員会が自分のできることを考え計画実行していった。「あいさつ運動」「笑顔プロジェクト」「いいねいいね思いやり」などの活動に多くの子どもたちが参加し、元気な声と笑顔があふれた。</li> <li>・周囲の友だちの気持ちを考えて行動することが難しく話し合いをもつことが数多くあった。自分の行動や言葉が相手にどのような影響を及ぼすのかを考える力をつけていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学級でいじめ防止について話し合い、全校で標語作成を行っている。人権意識の向上に向けた取り組みを継続していく。</li> <li>・子どもが互いを理解し合う場面を数多く作り、集団の中で一人一人のよさが認められるようにする。</li> <li>・固定した関係だけでなく、多くの人と関わることの楽しさを味わえるような縦割り活動・クラブ活動・委員会活動・学級活動を充実させる。</li> </ul>
3	校内研究・現職研修を通して、授業力の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科の校内研究に取り組み3年目を迎えた。国語を切り口として、様々な教科で「伝え合う」ことを意識した授業作りを行った。</li> <li>・夏休み明けに拡大要請訪問を行い、「思考力・判断力・表現力」を伸ばす授業について学んだ。考えることを大事にした授業・子どもの振り返りから次の学習を組み立てる授業がもっと増えてくることを期待している。</li> <li>・全教科の評価研修を行ったことで、日々の学習指導と評価の方法について共通理解することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が担当する学年だけでなく、6年間を通してどのように子どもたちが力を伸ばしていくのか見通しをもって指導することが大事である。指導要領を読み指導する内容を明確にして授業に望みたい。</li> <li>・授業を互いに見合うことで、授業力は向上すると考えている。研究授業の時だけでなく、教材研究の時間も使いながら隣の学級や他学年の授業を見ることが日常的に行われるようにしたい。</li> <li>・GIGA端末の活用について、学級によって差が出てきている。情報活用チェックリストを定期的に活用し一人一人の実態把握に努め、土台をそろえていきたい。</li> </ul>
	日々の授業を大切に、豊かな心と言葉で伝え合う学習を展開する		

4		地域に開かれた教育課程の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年昔遊び、2年町探検、3年川名梨園の梨づくり、4年学校や町のバリアフリー、5年環境学習、6年キャリア教育など地域を題材とした多くの学習を通して、地域の方と顔の見える関係を築き、自分の住む町のよさに気付き始めている。</li> <li>・さらに地域の人材を活用した学習ができるのではないかと考えている。人材を発掘し、単元開発することを教職員に投げかけたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画したが感染症の流行により実施できないものもあった。実施時期については、効果的に学習が進められるように年間のカリキュラムを見直したい。</li> <li>・学区の農家の方や介護施設など学習に関わってくださる方が他にもいることがわかった。来年度はその方々の協力も得ながら学習を展開することを考えている。</li> </ul>
5	心と身体の安全と健康に努める	健康や安全への児童の意識を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食便り・保健便り・掲示板・委員会作成の動画等を活用して、健康な体をつくるための取り組みを数多く紹介した。また、食育・健康教育の際に栄養職員や養護教諭が担任と共に教室に入り、専門的な立場からより具体的にわかりやすく指導することができた。</li> <li>・キラキラタイムを年間を通して実施している。大縄・玉入れ・野球など子どもたちが楽しみながら体を動かす姿が見られた。次年度は回数を増やして取り組みたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健委員会を4年ぶりに計画したが、感染症の急増により実施を見送った。校医の先生方も前向きに捉えてくださっているので、来年度はもう少し早い時期に実施できるよう計画したい。</li> <li>・生活習慣の大切さは、家庭の協力も必要である。学校の取り組みを保護者が参観できる機会を作りたい。</li> <li>・キラキラタイムは年間計画に位置づけて実施することで一年間を通して体を動かす楽しさを味わい運動に親しむ子どもを育てたいと考えている。</li> </ul>
6		児童の安全確保に努める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間6回の避難訓練と3回の下校訓練を通して、子どもたちの防災意識を高めることができた。今後は、休み時間等大人が近くにいる場面での安全な避難の仕方の徹底を図りたい。</li> <li>・委員会の児童が作成した「けがをしないために、させないために」のスライドを視聴後、学級で話し合いをもった。楽しく安全に学校生活を送るための行動の仕方を真剣に考えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練のない月には、短時間で行うことができるシェイクアウト訓練を実施し、子どもたちの防災意識をさらに高めていきたい。不審者対応訓練では、子どもを不安にさせないように教職員の連携した対応が必要になる。様々な場面を想定し訓練を続けていきたい。</li> <li>・登下校中に発生するけがが多くなっている。通学路の歩き方等けがを防止するための取り組みを継続して行う。</li> </ul>
7	チーム西野川で協力し合う	めざす子ども像の共有を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会・学校説明会・一葉会・学校便りなど様々な機会を捉えて、学校運営方針とめざす子ども像について説明してきた。そのことにより、地域を題材とした学習や保護者と協力して進める学習などが増え、子どもたちの学習に対する意欲が高まってきた。</li> <li>・する方もされる方もうれしくなる挨拶を通して、さらに人と人とのつながりが家庭や地域にも広がることを期待している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活科で町探検を行った際、公園清掃をしている方がいることに気付き、子どもたち自身も公園をきれいにしたいという思いをもった。そこで、自治会の方の協力を得て公園清掃を行うことができた。その後、休日に行われる自治会の公園清掃に進んで参加する子どもが出てきた。このように、学校での学びが家庭や地域の中で生かされることを願っている。</li> </ul>
8		情報発信により、新たな「つながり」を生み出す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校HPや便りを活用し、子どもたちの様子を積極的に発信してきた。また、地域や保護者からも学校外の子どもたちの様子を教えていただく場面が多く、善い行いについては全体で褒め喜び、そうでない行いは素早く学級で話し合いをもち早期に解決するように心がけた。</li> <li>・PTA活動がボランティア制に移行した。丁寧な説明により、大きな混乱が無く進められている。4年ぶりの開催となった「ふれあい西野川」は、多くの方が参加し、児童・保護者・地域から大変好評だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度より学校運営協議会が発足し、委員の中に学校・保護者・地域をつなぐ役割を担う地域コーディネーターをおくことができた。様々な情報が一つに集約され多くの方が情報を共有できるようになった。来年度は、よりスムーズに情報が行き渡り、それぞれの団体が双方向で意見交換できるようになることを考えている。子どもの成長を願い、多くの方の力でよりよい学校運営をめざしたい。</li> </ul>

### 学校関係者の評価

- コロナ禍が明け、教室の中で授業参観ができたり、親子で参加できる行事やイベントがあったりしてよかった。
- 子どもの個性や自主性を大事にした授業内容、関わりをしてくれているのでありがたく思っている。
- 外部講師による授業が設定されており、家で授業内容を楽しそうに話してくれる。その都度、新しい学びがありよかった。
- キラキラタイムはととてもよいと思う。多くできたらなおよいと思った。
- お便りなど紙での配付が多いように感じる。データで配信していただくと助かる。
- 落ち着いて学習に取り組んでいる姿が見られる。GIGA端末の活用が進んできていることがわかる。

### 学校運営のまとめ

- 5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、運動会・たてわり活動・授業参観・地域探検・学芸大会・給食試食会・幼小保連携事業・学校運営協議会・ふれあい西野川・どんど焼きなど、たくさんの人と関わりながら学校運営を行うことができた。保護者の方や地域の方と顔を合わせることが増え、子どもたちの成長を共に喜ぶことができたことをうれしく思う。
- 学校を楽しんでいる子どもたちがたくさんいる一方で、不安や心配から学校へ気持ちが向かない子どももいる。また、生活リズムが整わないために、朝起きることができず遅刻欠席をしてしまう子どももいる。一人一人の子どもに寄り添うと共に、保護者と連携しながらきめ細やかに対応していきたい。
- 今年度より学校運営協議会が発足した。委員のみなさんが意欲的に取り組まれていることに感謝したい。次年度は、学校・地域・家庭が抱える問題の解決に向けてさらに知恵を出し合いたいと考えている。
- 児童会活動が活発になってきている。児童がスローガンの実現に向けて、自ら考え計画を立て行動に移している。この力を来年以降も伸ばしていきたい。